

令和4年度 老人保健事業推進費等補助金 老人保健健康増進等事業

チームオレンジの整備促進に関する調査研究

報告書

令和5年3月

株式会社 日本総合研究所

目次

1. 本調査研究の概要	1
1.1. 本調査研究の背景・目的	1
1.2. 本調査研究の進め方・実施事項	2
(1) 検討委員会の設置・運営	2
(2) アンケート調査の実施	3
(3) ヒアリング調査の実施	3
(4) 市町村向け成果物の作成、発信	3
(5) 報告書の作成	3
2. アンケート調査の実施	4
2.1. アンケート調査の概要	4
2.2. アンケート調査の主な結果	5
(1) チームオレンジの活動状況等について	5
(2) ステップアップ講座の内容について	14
(3) その他	15
3. ヒアリング調査の実施	16
3.1. ヒアリング調査の対象	16
3.2. ヒアリング調査の結果	17
4. 検討委員会における議論	17
5. 今後の課題	19
(1) チームオレンジの成果等をより多くの本人・家族等に還元する仕組みの検討	19
(2) 「チームオレンジの三つの基本」の具体的な運用のあり方の周知	19
参考資料1_チームオレンジに関するアンケート調査 調査票	20

<別冊資料>

認知症になっても安心して暮らし続けられる地域づくりに向けて

—本人を中心としたチームオレンジの整備—

1. 本調査研究の概要

1.1. 本調査研究の背景・目的

令和元年度以降の国の認知症施策は、令和元年6月に策定された「認知症施策推進大綱」(令和元年6月認知症施策推進閣僚会議)を基本として展開されている。認知症施策推進大綱の基本理念は「共生と予防」である。共生を進めるためには地域支援体制の強化が必要であり、そのための具体的な方策の一つとしてチームオレンジを地域ごとに構築する取組が進んでいる。

チームオレンジとは、「認知症と思われる初期の段階から、心理面・生活面の支援として、市町村がコーディネーターを配置し、地域において把握した認知症の方の悩みや家族の身近な生活支援ニーズ等と認知症サポーターを中心とした支援者をつなぐ仕組み」であるとされている。国の具体的な施策としては、令和2年度より地域支援事業の認知症総合支援事業に「認知症サポーター活動促進・地域づくり推進事業」として位置づけられている。

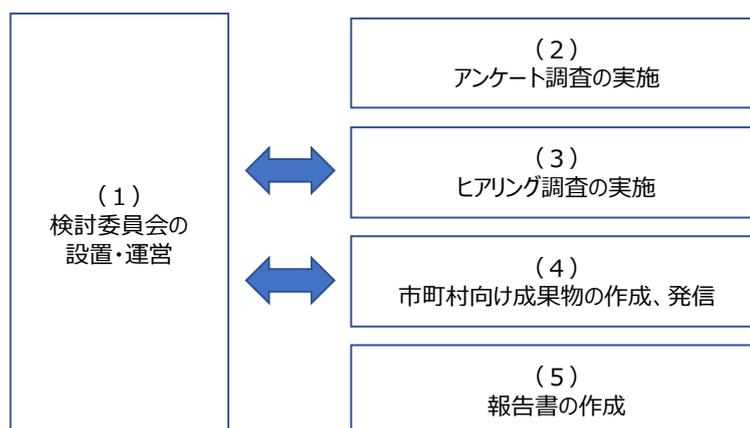
チームオレンジについては、認知症施策推進大綱において、令和7年度までに「全市町村で、本人・家族のニーズと認知症サポーターを中心とした支援を繋ぐ仕組み(チームオレンジなど)を整備」という目標が設定されているが、令和4年6月末時点の設置状況としては、220市町村、492チームの設置にとどまっている。また、国の示す「チームオレンジの三つの基本(①ステップアップ講座修了及び予定のサポーターでチームが組まれている、②認知症の人もチームの一員として参加している、③認知症の人と家族の困りごとを早期から継続して支援ができる)」に対しては、市町村等から「抽象的」あるいは「制限的」であり、「どのように事業に取り組んだら要件を満たすのかが分かりにくい」、「地域の既存事業との棲み分けが分かりにくい」、「何から取り組んだらよいか分からない」などの指摘がある。

上記の背景を踏まえ、本調査研究では、チームオレンジのより一層の整備促進に向けて、市町村の担当者等が「チームオレンジの三つの基本」の実践を含めて、具体的なイメージを持ってチームオレンジの整備を進めていくことができるための情報発信を行うことを目的として、各種調査、検討を実施した。

1.2. 本調査研究の進め方・実施事項

本調査研究では図表 1 のとおり、有識者等からなる検討委員会を設置し、調査の進め方や市町村向け成果物について意見を得ながら進めた。

図表 1 本調査研究の進め方・実施事項



(1) 検討委員会の設置・運営

本調査研究を効果的に推進するため、有識者等からなる検討委員会を設置・運営した。委員構成は図表 2 に示すとおりである。検討委員会は計 3 回実施し、各回の主な議題は図表 3 にて示すとおりである。

図表 2 委員構成 (50 音順・敬称略)

氏名	所属先・役職名
鬼頭 史樹	名古屋市北区西部いきいき支援センター
小村 克宏	大阪府 福祉部 高齢介護室 介護支援課認知症・医介連携グループ 課長補佐
齊藤 道子	群馬県 玉村町 健康福祉課 高齢政策係(地域包括支援センター)
永島 徹	NPO 法人 風の詩 代表
花俣 ふみ代	公益社団法人認知症の人と家族の会 副代表理事・埼玉県支部代表
藤田 和子	一般社団法人日本認知症本人ワーキンググループ 代表理事
○堀田 聡子	慶應義塾大学大学院 健康マネジメント研究科 教授
松原 智文	特定非営利活動法人地域支え合いネット 理事

※ ○印:委員長

<オブザーバー>

- ・ 厚生労働省 老健局 認知症施策・地域介護推進課
- ・ 特定非営利活動法人 地域共生政策自治体連携機構(c2p-A)

図表 3 委員会各回における主な議題

回	実施日	主な議題
第1回	令和4年 9月13日(火)	・ 本事業の概要および主な論点等の確認 ・ アンケート調査およびヒアリング調査の実施方針の検討
第2回	令和4年 11月24日(木)	・ アンケート調査およびヒアリング調査の実施状況の報告 ・ 市町村向け成果物のタイトル、構成、内容の検討
第2回	令和5年 2月1日(水)	・ アンケート調査およびヒアリング調査の実施結果の報告 ・ 市町村向け成果物のタイトル、構成、内容の検討

(2) アンケート調査の実施

ヒアリング対象の抽出、設置済みのチームオレンジの概況の把握等を目的としてチームオレンジ等を既に設置している市町村を対象としたアンケート調査を実施した。

(3) ヒアリング調査の実施

チームオレンジ等を既に設置している市町村の活動状況の実態や工夫、課題等を把握することを目的に、市町村へのヒアリング調査を実施した。

(4) 市町村向け成果物の作成、発信

上記のアンケート調査及びヒアリング調査の結果や検討委員会での議論等を踏まえ、市町村の認知症施策担当者等を主な対象とする成果物を作成した。なお、成果物については全都道府県、市町村に郵送した。

(5) 報告書の作成

一連の調査研究の内容・結果について、本報告書に取りまとめた。

2. アンケート調査の実施

ヒアリング対象の抽出、設置済みのチームオレンジの概況の把握等を目的としてチームオレンジ等を既に設置している市町村を対象としたアンケート調査を実施した。本章では、その概要を示す。

2.1. アンケート調査の概要

調査の概要は以下のとおり。

調査対象	チームオレンジ等を既に設置している市町村
調査方法	電子媒体の調査票(MS-Excel)を電子メールで配布・回収
調査期間	2023年11月10日～2023年12月2日
送付件数	220件 ※厚生労働省提供データをもとに対象を抽出
回収件数	133件 (回収率:60.5%)
主な調査項目	チームオレンジの活動内容 活動への本人・家族のかかわり 本人のニーズや希望を把握するための取組や工夫 チームオレンジの立上げの経緯 チームオレンジの立上げにあたって連携した社会資源 立上げから活動の定着に至るまでのプロセスでの苦労や難しさ チームオレンジの円滑な活動のための工夫 チームオレンジを設置することにより生じた効果・行政として感じているメリット チームオレンジについて行政として感じている課題 ステップアップ講座の実施状況・内容 実施要綱の整備状況、個人情報の取り扱いルールの整備状況

2.2. アンケート調査の主な結果

(1) チームオレンジの活動状況等について

<チームオレンジの活動内容>

チームオレンジではどのような活動をされていますか。具体的な活動内容についてご記入ください。

(自由記述)

【主な回答(抜粋)】

- ・ 一人暮らしの高齢者のお宅への訪問等の見守り活動や屋外での筋力トレーニング、草刈り等の生活支援を行うお助け隊等を実施している。
- ・ 下校時の小学生に対する校門での声かけ活動や見守りウォーキング、筋力トレーニング・吹き矢の練習を実施している。
- ・ 空き家を活用したサロン活動や団地の一角を活用した菜園ボランティアを実施している。
- ・ 本人の方の「やりたいこと・やってみたいこと(趣味活動等)」とオレンジサポーターの「できること」をマッチングしている。
- ・ 地域にある病院で様々な講座を開催。介護予防教室や人生会議等の専門職による講座のほか、オレンジサポーターが講師となり、川柳、ハンドマッサージ等の特技を活かした講座も実施。認知症に関する相談も受け付けている。
- ・ 毎年9月の世界アルツハイマー月間に向け、認知症のイメージカラーであるオレンジ色の花を市内各所で栽培している。
- ・ 毎年9月の世界アルツハイマーデーに向け、図書館の書籍を手作りのポップでPRし、身近な所から認知症を知ってもらう普及啓発活動をしている。
- ・ 認知症の本人や家族を支えるために、見守り・声掛け・話し相手・出前支援等のちょっとしたお困り事に対する支援を行っている。具体的には、本人からの希望や困りごとに応じて、買い物の同行や「調理の仕方が分からない」といった不安感への傾聴、介護している家族の気分転換としてサロンへの同行等を実施している。
- ・ 本人が「笑顔」で健康に暮らせるよう、専門知識を持つメンバーとともに「脳トレ」や「フレイル予防」等の教室を開催している。具体的には、メンバーの要望に応じて、フラワーアレンジメントや自家製の経口補水液の作成、化粧体験を実施している。
- ・ 本人の自宅に傾聴ボランティアが訪問し、話し相手になる活動を実施している。
- ・ 認知症の方を含めた認知症サポーターや、認知症の人と家族の会会員を中心として、認知症カフェや個別支援等の活動を実施している。
- ・ 認知症に優しい地域づくりに関する検討会を継続的に開催。自治会長、地域主体の通いの場のボランティア、民生委員・児童委員を対象とした認知症サポーター養成講座を実施している。

<活動への本人・家族のかかわり>

チームオレンジに認知症の本人・家族はどのようにかかわっていますか。具体的なかかわり方をご記入ください。(自由記述)

【主な回答(抜粋)】

<本人のかかわりに関する事項>

- ・ 本人に役割をもって参加してもらうことを目標に(カフェの店員として、コーヒーを入れる、一緒にカフェのお菓子を作る「蒸しパン」「白玉だんご」「ホットケーキ」など)、楽しみながら取り組んでいる。
- ・ 本人・家族の「近所に挨拶ができるくらいの関係づくりをしたい」という希望を叶える為、オレンジサポーター主体で体操・脳トレ教室を運営し、送迎なども含め本人・家族の参加を支援している
- ・ 本人・家族区別なくオレンジカフェに自由に参加してもらっている。本人や家族、ボランティアなど参加者の役割区別なくかかわっており、その人自身の得意や好きなことが活かせる場や居場所と利用されている。参加者同士で自身の経験を伝え合うなどピアとしてのかかわりも見受けられる。
- ・ 本人の希望に応じた参加を可能としており、事前の本人ミーティングで活動希望を出すところから関わっている方もいれば、当日の活動に参加するだけの方もいる。
- ・ 本人とボランティアという壁を作らず、仲間として一緒に楽しい時間を過ごしている。
- ・ 本人ミーティングや相談場面等での本人の声を丁寧に聞く中で、施策全体に本人の声を反映することを基本としている。本人発信(講座や冊子)にも力を入れて取り組んでおり、本人が望むサポートの在り方や、暮らしやすい環境について、共有している。
- ・ 認知症の本人や家族だからと特別扱いするのではなく、お互いに声を掛け合って参加している。
- ・ 認知症の本人が「どのような活動がしたのか？」等を拾い上げ、それぞれのプロジェクトが立ち上がっている。それぞれの活動を進めていく上で、認知症の本人や家族の声を聞いて、進めている。
- ・ 一人ひとりに役割があり、誰かを必要とし、必要とされるような環境づくりに努め、個々に活動する上でできること、やりたいことなどを伺い、社会的役割が持て、チームの一員として共に行動することを目指している。
- ・ 認知症をより身近に、よりリアルに感じてもらえるよう、認知症介護に対する体験を語ってもらっている。また、チーム員として定例会議に毎回、参加してもらっている。

<家族のかかわりに関する事項>

- ・ 家族介護に関わっている人は、少しの間介護から離れ、自分が楽しむ時間を作ってもらえレスパイトケアになりうるように参加してもらっている。
- ・ 認知症をより身近に、よりリアルに感じてもらえるよう、認知症介護に対する体験を語ってもらっている。また、チーム員として定例会議に毎回、参加してもらっている。

＜本人のニーズや希望を把握するための取組や工夫＞

チームオレンジの活動にあたって本人のニーズや希望を把握するために実施している取組や工夫があれば、その内容を具体的にご記入ください。(自由記述)

【主な回答(抜粋)】

＜本人・家族への声掛けに関する事項＞

- ・ 率直に、「どんな場所だったらいいと思いますか」と本人に聞いている。主催者側に合わせた集まりに参加してもらうのではなく、参加者が望む集まりを工夫しながら作っている。
- ・ 本人に参加の声掛けをする場合、「得意なことで力を貸してほしい」等と伝え、本人自身がやりたいと思えることに心がけている。参加時は顔なじみの関係性に配慮し、楽しみながら参加してもらっている。取り組みやすいように作業を分担し、好きな作業を自由に選択してもらっている。
- ・ 普段の話や生活の中で活動のヒントになるような本人の声を聞いている。
- ・ 本人が望む活動(好きな過ごし方、趣味など)を、本人、家族、その他の関係者(介護支援専門員、保健師等)から、聞き取っている。
- ・ サロン活動に参加していただいた際、特技や実施してみたい事を確認し、本人のストレングスを活かす活動ができないかをチーム員とともに考え、実現できるように取り組んでいる。

＜本人・家族が話やすい雰囲気づくりに関する事項＞

- ・ 本人や家族に、どんな活動をしたいか、活動の中で話をする中で、ニーズを把握するようにしている。色々なことを気軽に話しやすい雰囲気づくりを心掛けている。
- ・ 分け隔てなく参加してもらい、「一人の人間」として尊重し合える環境を整えることによって、「自分の気持ちを表現できる場」となり、愚痴などを吐き出す場にもなっている。そこから、生まれるニーズや希望もあり、把握する一つの手段としている。
- ・ 本人のニーズや希望を把握するために行っているというより、認知症だからと特別扱いせず、参加者それぞれが発言しやすい雰囲気や居場所づくりを行うようにしている。

＜ツール、様式等に関する事項＞

- ・ 家族や本人の希望を独自の様式に整理し、その様式を用いてメンバーと検討している。
- ・ 本人・家族がオレンジサポーターによる活動支援を希望する場合、「活動依頼書」を提出してもらっている。依頼後に、チームオレンジコーディネーターが支援ニーズの把握を行い、本人や家族のニーズに沿ったオレンジサポーター支援計画書を作成している。サポーターが実際に支援活動を行う際には、チームオレンジコーディネーターが助言やサポーターの支援を行う。

＜その他＞

- ・ ステップアップ研修の中にコミュニケーションスキルに関する講座を取り入れており、なにげない会話の中から本人の気持ちを汲み取る手法の学習を行っている。

<チームオレンジの立上げの方法>

貴自治体におけるチームオレンジの立上げの方法として近いものを選択してください。(1つ選択)

チームオレンジの立上げの方法としては『以前から地域にあった団体や活動等をそのまま「チームオレンジ」とした』が 63 件(47.4%)で最も割合が大きく、次いで『「チームオレンジ」として新たに団体や活動等を立ち上げた』が 51 件(38.3%)であった。

図表 4 チームオレンジの立上げの方法

	n	%
「チームオレンジ」として新たに団体や活動等を立ち上げた	51	38.3%
以前から地域にあった団体や活動等を変更（再編）し、「チームオレンジ」とした	32	24.1%
以前から地域にあった団体や活動等をそのまま「チームオレンジ」とした	63	47.4%
その他	10	7.5%
回答自治体数	133	-

<チームオレンジの立上げの経緯>

チームオレンジの立上げの経緯や、根拠となっている計画などを具体的にご記入ください。(自由記述)

【主な回答(抜粋)】

- ・ 令和 2 年度に地域支援事業の認知症総合支援事業にチームオレンジが位置付けられたのを機に、チームオレンジメンバーに相応しい既存団体を検討し、認知症カフェと傾聴ボランティア団体に声掛けを行った。調整や立ち上げ会議を重ねて、令和 3 年に立ち上げた。
- ・ 介護予防サポーターとして地域で主体的に一般介護予防事業の活動を行っている対象者に、認知症サポーター養成講座ステップアップ研修を実施した。その受講者のうち、チームオレンジとして活動意思の表示者が複数得られたため、チーム立ち上げとなった。
- ・ チームオレンジを立ち上げる際に、どこにチームを置くべきか認知症ケアパス委員会で議題に挙げたところ、以前から対応しており個人宅に訪問している配食ボランティアやオレンジカフェの方をお願いするのが良いのではないか意見があり、立ち上げに至った。
- ・ 県のモデル事業として定期的な支援を受け、立ち上げに至った。
- ・ 元々認知症予防で活動しているボランティアグループに本人が会員として活動されていたことから、チームオレンジとしての活動について市より提案し、立ち上げに至った。

＜チームオレンジの立上げにあたって連携した社会資源＞
 チームオレンジの設置にあたって連携した社会資源としてあてはまるものを全て選択してください。
 (複数選択)

チームオレンジの設置にあたって連携した社会資源としては、「認知症地域支援推進員」と「地域包括支援センター」がそれぞれ9割弱となっており、連携している割合が大きかった。一方、「地域の民間企業」や「地域の商工会」との連携については1割未満であった。

図表 5 チームオレンジの立上げにあたって連携した社会資源

	n	%
チームオレンジコーディネーター	64	48.1%
認知症地域支援推進員	119	89.5%
生活支援コーディネーター（地域支え合い推進員）	55	41.4%
地域包括支援センター	118	88.7%
地域の認知症カフェ	70	52.6%
地域の商工会	6	4.5%
地域の民間企業（金融機関、住宅、小売り業 等）	12	9.0%
地域の医療機関（病院、かかりつけ医、薬局 等）	26	19.5%
地域の介護事業所・施設	39	29.3%
地域の社会福祉協議会	54	40.6%
地域のボランティア団体	42	31.6%
認知症初期集中支援チーム	35	26.3%
協議体（生活支援体制整備事業）	13	9.8%
地域ケア会議	15	11.3%
その他	45	33.8%
回答自治体数	133	-

- 「その他」の具体的な内容(抜粋)
 - ・ 図書館
 - ・ 警察
 - ・ フードバンク、子ども食堂
 - ・ 民生委員・児童委員 等

＜立上げから活動の定着に至るまでのプロセスでの苦労や難しさ＞

チームオレンジの立ち上げから活動の定着までに至るまでのプロセスでの苦労や感じられた難しさなどがあればご記入ください。(自由記述)

【主な回答(抜粋)】

＜「チームオレンジ」への理解に関する事項＞

- ・ 既存の活動者をチーム員として認定したため「改めて何か活動する必要があるのか」と、とまどいの声が聞かれた。
- ・ 「チームオレンジ」という名称に対して、何か特別なことをしなければいけない、チームとして動かなければいけない等負担を感じるボランティアの方が多く、活動内容を説明する際に難しさを感じた。
- ・ 「チームオレンジ」についてはっきりとした概念がなく、チームオレンジとは何か、チームオレンジを立ち上げて何をするのかをチーム員に理解してもらうこと、また説明をする自分たち自身が理解することが難しかった。
- ・ 地域住民や事業者を巻き込んでチーム作りをする際に、「メリットがない」「既に似たような活動をしているので必要ない」「負担が増える」「自分たちがこれまでやってきた活動に行政が便乗するようで面白くない」との拒否感が非常に強く、地域の理解を得ることに苦労した。

＜本人・家族の参加、活動の継続性に関する事項＞

- ・ 本人の希望の実現に向けた活動に取り組む際に、活動の事前調整に時間がかかった場合、本人の症状の進行等により希望が変わっていることがあった。
- ・ 症状の進行等により在宅生活を続けられなくなることが多く、常に活動に本人に参加してもらう状態を維持することは難しい。

＜感染症対応に関する事項＞

- ・ 認知症カフェを起点にした活動やチーム員同士のコミュニケーションが新型コロナの蔓延によりなかなか実施できなかった。今も人が集まる場合、感染症対策に非常に気を遣う。

＜その他＞

- ・ リーダー格となる人材の発掘と定着、モチベーションの維持・向上、それらに伴う負担の増大への配慮が不可欠である。
- ・ 行政だけで完結するのではなく、地域住民や様々な企業、医療機関等と協働して行いたいこともあったが、どのように関わりや繋がりを構築していけばいいかわからなかった。

<チームオレンジの円滑な活動のための工夫>

チームオレンジの円滑な活動のために工夫されていることがあればご記入ください。(自由記述)

【主な回答(抜粋)】

<情報の共有に関する事項>

- ・ 支援同意書や支援計画書を作成し、本人・家族、サポーターそれぞれが目で見える形で支援を展開することにより、本人・家族を含めたチーム員が安心して活動ができている。
- ・ あまり活動に参加できていない方についてもモチベーションを保ってもらうため、開催記録の共有や個別連絡を行い、現在の進捗状況を共有している。それにより、参加できなくても「これならできる」といった自発的な声があがるなどの効果がでている。

<安心して活動できる環境の整備に関する事項>

- ・ 本人とサポーターが互いに支援を円滑に継続できるよう、コーディネーターが丁寧に調整を行うようにしている。それにより、サポーターも安心して活動できている。
- ・ 気軽に参加できることを大切に、活動内容や参加の有無は当日の気分で決めることができる。
- ・ メンバー各自が、無理をせず、できる範囲での活動を行うようにしている。
- ・ 行政や専門職、役職、年齢などの垣根を出来る限り無くし、チームメンバーが横並びの関係で、個々のメンバーの得意なことやできることを活かしながら、無理のない範囲で活動している。

<チーム員同士のコミュニケーションに関する事項>

- ・ 毎月1回のチーム員ミーティングを設けて、チーム員の意見を聞いている。本人もチーム員ミーティングに参加し、より活動が充実するように意見交換を行っている。
- ・ 毎回の活動毎に振り返りの機会を設け、チーム員の想いを聞くようにしている。

<楽しんで活動できる場づくりに関する事項>

- ・ 本人のやりたいことやチームメンバー全員が楽しめるように取り組むことを意識している。
- ・ 本人・家族を含めて、チーム員の特技や経験等を活かした活動を行うようにしている。

<住民主体の活動に関する事項>

- ・ メンバー同士の横のつながりを作り、市や認知症地域支援推進員が主体になるのではなく、チームのメンバーが主体的に動けるような意識作りと環境を作ることを目標に活動している。
- ・ 顔の見える信頼関係を構築するため、市の担当者、事務局を務める地域包括支援センター、チーム員たる地域住民とで密に関わり、意見交換を重ねた上でチームの方向性を決めた。これにより、立ち上げ後の活動が、円滑に進んでいる。
- ・ トップダウンではなく、オレンジサポーター、認知症地域支援推進員、行政がフラットな関係で協働できるようにしている。

<チームオレンジを設置することにより生じた効果・行政として感じているメリット>

チームオレンジを設置することにより、生じた効果や行政として感じているメリットがあればご記入ください。(自由記述)

【主な回答(抜粋)】

<本人・家族との接点、つながりに関する事項>

- ・ 本人・家族との接点が増え、実際に本人・家族の声を聴くことができる機会が多くなった。
- ・ 以前は認知症の診断後一定期間が経過してから行政の総合相談業務にくるケースが多かったが、チームオレンジの活動により、早い時期に地域のサロンで関係性の構築が可能になった。
- ・ 本人とその家族の困りごとを早期から継続して支援できることにより介護サービスへの移行がスムーズに行えるようになった。

<本人・家族の安心感、生活の充実に関する事項>

- ・ 公的サービスや家族の支援では手の届かないところを住民同士が支え合う貴重な活動であり、住み慣れた地域で暮らし続ける安心感につながっていると感じている。
- ・ 本人やその家族が必要と感じている生活の中でのちょっとした支援をオレンジサポーターが行うことで、本人の行動範囲が広がり、より自分らしい生活を送ることができている。
- ・ 見守り活動を通して本人や家族との関係性が深まり、認知症カフェへの来所に繋がるなど、本人の社会参加が促される、本人の楽しみや生きがいができるなどの効果があった。

<地域づくりへの貢献に関する事項>

- ・ 認知症を自分事としてとらえる機運が高まり、認知症にやさしい地域づくりにつながっている。
- ・ チームオレンジの設置、活動を通して地域の団体同士や行政の横の繋がりが強化された。認知症施策に関する協力を求める信頼できる第一候補がチームオレンジになっている。
- ・ 地域住民と行政が、協働して地域づくりに取り組んでいく土台作りができている。

<地域住民の意識の変化に関する事項>

- ・ チーム員から「認知症当事者へのイメージの変化(何もわからない人ではなく、できることもある。関りを断ち切らないことが大切 等)」や「認知症になっても地域で関わり続けていきたい」等の発言が聞かれるようになった。地域住民の意識が確実に変わったと感じている。

<認知症以外の領域への派生効果に関する事項>

- ・ 認知症サポーター自身の介護予防とQOL向上につながっている。
- ・ 引きこもりがちな認知症・高齢者が認知症サポーターの声掛けによって参加してくれており、孤立を回避することにより、認知症だけでなく身体機能低下の予防・防止にも貢献している。

＜チームオレンジについて行政として感じている課題＞

チームオレンジについて、行政として課題に感じていることがあればご記入ください。（自由記述）

【主な回答(抜粋)】

＜本人・家族の参加に関する課題＞

- ・ 拠点型の取組をしているが、本人が参加する際の拠点までの移動手段が乏しい。
- ・ 認知症バリアフリーの考えが地域に十分に浸透しておらず、本人や家族が認知症であることを相談できず、チームオレンジの取り組みになかなか繋がらない事例がある。
- ・ 本人がチームオレンジの担い手として現時点では参加できていないため、本人の参加のあり方を検討する必要がある。

＜他の主体との連携、巻き込みに関する課題＞

- ・ 継続的に認知症について学ぶ機会を求める声がチーム員から出ており、社会福祉法人等の専門職とのつながりについても検討していく必要を感じている。
- ・ 医療機関との連携が不十分であると感じている。診断直後の対応や受診先からの紹介等を効果的に行える連携体制を構築していきたいと考えている。
- ・ 個人情報の観点から、本人の情報を伝えることが難しいことなどが理由となり、地域のスーパー、コンビニなどがチームオレンジの輪に加わることが出来ていない。

＜人材不足、運営の担い手に関する課題＞

- ・ チームオレンジを複数設置するには新たな人材の確保等が必要であるが、人口が少なくマンパワーが不足している。
- ・ ボランティアの高齢化が進んでおり、後継者がいない活動の継続性が課題になっている。
- ・ 活動がより具体化、多様化することで、担当者及びチームメンバーの負担が増えている。

＜感染症対応に関する課題＞

- ・ 感染症の影響により、ステップアップ講座の開催が難しく、チームオレンジのメンバーを増やすことがなかなかできていない。
- ・ 感染予防のため活動量が減っており、活動意欲を継続するための支援が必要だと感じている。
- ・ コロナ禍でサロン活動が行えず、地域での交流ができず、住民との新たなきっかけづくりができていない。チーム員同士が集まる機会も減っている。

＜その他＞

- ・ チームオレンジの整備、活動状況について地域ごとに格差が大きい。
- ・ 地域住民の自主性が乏しく、市や包括支援センターが主導する活動になってしまっている。
- ・ 他のサロン活動等との明確な差別化ができていない。

(2) ステップアップ講座の内容について

貴自治体が発行しているステップアップ講座の内容として最も近いものを1つ選択してください。「自治体独自の内容を実施している」又は「その他」を選択した場合には、実施しているステップアップ講座の内容を具体的にご記入ください。(1つ選択、自由記述)

ステップアップ講座の内容としては、「自治体独自の内容を実施している」が78件(58.6%)で最も割合が大きかった。

図表 6 ステップアップ講座の内容

	n	%
全国キャラバン・メイト連絡協議会発行の「認知症サポーターステップアップ講座教材」に沿って実施している	44	33.1%
自治体独自の内容を実施している	78	58.6%
その他	11	8.3%
回答自治体数	133	-

- 「自治体独自の内容」の具体的な内容(抜粋)
 - ・ 認知症サポーター養成講座の振り返り
 - ・ 他地域の認知症サポーターの取り組み事例の紹介
 - ・ 認知症について認知症サポート医による講演
 - ・ 希望大使等の本人による講演
 - ・ チームオレンジコーディネーターによるオレンジサポーターの活動内容の紹介
 - ・ デイサービスやグループホームでの認知症の人との交流会
 - ・ これから自分たちで取り組みたいことについてのグループワーク
 - ・ ステップアップ研修修了後の具体的な活動に向けたグループワーク 等
 - ・
- 「その他」の具体的な内容(抜粋)
 - ・ 市では実施せず、県主催の講座に参加 等

(3) その他

＜実施要綱の整備状況＞

チームオレンジの活動等に関する実施要綱を作成していますか。(1つ選択)

実施要綱の整備状況としては、「実施要綱を作成している」が 22 件(16.5%)、「実施要綱を作成していない」が 98 件(73.7%)であった。

図表 7 実施要綱の整備状況

	n	%
実施要綱を作成している	22	16.5%
実施要綱を作成していない	98	73.7%
その他	11	8.3%
回答自治体数	131	-

＜個人情報の取り扱いルールの整備状況＞

チームオレンジの活動等に関する個人情報の取り扱いについてルール等を定めていますか。ルール等を定めている場合は、その内容を具体的にご記入ください。(1つ選択、自由記述)

個人情報の取り扱いルールの整備状況としては、「個人情報の取り扱いに関するルール等を定めている」が 52 件(39.1%)、「個人情報の取り扱いに関するルール等を定めていない」が 77 件(57.9%)であった。

図表 8 個人情報の取り扱いルールの整備状況

	n	%
個人情報の取り扱いに関するルール等を定めている	52	39.1%
個人情報の取り扱いに関するルール等を定めていない	77	57.9%
回答自治体数	129	-

- 定めているルール等の具体的な内容(抜粋)
 - ・ 守秘義務誓約書で、プライバシー保護に関する同意を得ている。
 - ・ チームオレンジへの登録申請書で、個人情報の取扱いに関する誓約をもらっている。
 - ・ 同意書を書面で作成し、本人の希望に合わせた形で個人情報を取り扱えるようにしている。
 - ・ 「チーム員及び会議に出席を求められた者は、活動上知り得た個人情報を他に漏らしてはならない」とチーム規約で規定している。
 - ・ 個人情報の取り扱いについて注意する点としてチームオレンジの手引きに記載している。
 - ・ 個人情報についての講義を行い、注意事項や厳守する事を伝えている。 等

3. ヒアリング調査の実施

チームオレンジ等を既に設置している市町村の活動状況の実態や工夫、課題等を把握することを目的に、市町村へのヒアリング調査を実施した。本章では、その概要を示す。

3.1. ヒアリング調査の対象

ヒアリング調査はチームオレンジの対象は、以下2つの観点で抽出した。

- ① 公開情報等により特徴的な活動を実施していると考えられる市町村
- ② アンケート調査により特徴的な活動を実施していると考えられる市町村

なお、ヒアリング調査対象の抽出にあたっては、チームオレンジの類型(設立経緯や活動内容等)や人口規模別に偏りが出ないように配慮した。実際にヒアリング調査を行った市町村は下記のとおりである。

市町村名	部署	実施日	抽出基準
群馬県玉村町	健康福祉課 高齢政策係	2022年8月15日	①
奈良県三郷町	住民福祉部 長寿健康課 地域包括支援センター	2022年8月17日	①
静岡県沼津市	市民福祉部 長寿福祉課	2022年8月19日	①
埼玉県入間市	福祉部 高齢者支援課	2022年9月7日	①
岩手県矢巾町	健康長寿課長寿支援係	2022年9月7日	①
神奈川県平塚市	福祉部 高齢福祉課	2022年9月15日	①
静岡県静岡市	保健福祉長寿局 地域包括ケア推進本部 在宅医療・介護連携推進係	2022年11月9日	①
愛知県瀬戸市	健康福祉部 高齢者福祉課 地域支援係	2023年1月19日	②
石川県小松市	健康福祉部 長寿介護課	2023年1月25日	②
島根県浜田市	健康福祉部 健康医療対策課 高齢者福祉係	2023年1月25日	②
愛知県豊明市	健康福祉部 長寿課	2023年1月25日	②
東京都清瀬市	生涯健幸部 介護保険課 地域包括ケア係	2023年1月27日	②
千葉県千葉市	保健福祉局健康福祉部 地域包括ケア推進課 認知症対策班	2023年2月8日	②
北海道北広島市	保健福祉部 福祉総合相談室	2023年2月3日	②
島根県松江市	健康福祉部 介護保険課	2023年2月8日	②
静岡県藤枝市	健康福祉部 地域包括ケア推進課	2023年2月10日	②
大阪府門真市	保健福祉部 高齢福祉課	2023年2月14日	②
三重県伊勢市	健康福祉部 福祉生活相談センター	2023年2月24日	②

3.2. ヒアリング調査の結果

ヒアリング調査の結果については自治体ごとに取りまとめ、成果物に反映した。

4. 検討委員会における議論

「1.2.本調査研究の進め方・実施事項」で記載の通り、本調査研究は有識者からなる検討委員会を立ち上げ、主に市町村向け成果物の内容について意見を得た。その中で今後のチームオレンジのあり方、チームオレンジの三つの基本、市町村への情報発信時の留意点等について、以下のような意見があった。

今後のチームオレンジのあり方について

- チームオレンジの目的は、認知症とともに安心して地域で暮らし続けられる状態を実現することや本人の希望を叶えることであり、チームオレンジはあくまでそのような状態を実現するための手段の1つであると考えている。手段であるチームオレンジの設置自体が目的化している傾向も見受けられるため、何のためのチームオレンジかという点を立ち返って考えることも必要ではないか。
- チームオレンジは地域資源に根ざした活動であり、地域の特性の影響を大きく受ける。そのため、チームオレンジはこうでなければいけないと決めつける必要はないのではないかと。様々な形で行われている活動をチームオレンジとして認めつつ、より充実した継続可能な仕組みに育て上げる必要があるのではないかと。
- チームオレンジとして、「認知症の方のために何かをしよう」という思いをきっかけに活動を始めること自体は非常に良いことであるが、中長期的には、「認知症であるかどうかを問わず、気にせず付き合っていける」といった体制の構築につなげていくことが重要ではないかと。
- チームオレンジは熱心のボランティアの思いによって支えられている活動である。一方、本人を差し置いてボランティアが前に出てくるといったことが、段々と顕在化していくことがある。「本人ミーティングがあるからこそチームオレンジが活きる」という点を意識し、本人同士が集まる場や、本人の声を丁寧に確認する機会を設けながら、活動していくことが重要ではないかと。
- チームオレンジには多様な形があるが、どのような活動を行う場合も「本人のためのチームオレンジ」という視点が尊重されるべきである。チームオレンジでの活動を通じて、本人が「楽しい」、「心地よい」、「自分が大切にされている」といった気持ちを持つことを重視して欲しい。そのためには、制度や仕組みありきで、チームオレンジに本人をあてがうのではなく、本人の思いや願いを引き出しながら、本人とともに、チームオレンジを作り上げていくことが必要と考えている。
- 本人は「支援される一方の存在」という先入観が、行政や地域社会に存在することが多いが、チームオレンジでは、本人が他の本人や地域住民等を支援することもある。チームオレンジでの活動を通じて、古い認知症観や先入観が変わっていくことを期待したい。

チームオレンジの三つの基本について

- 三つの基本の文言は見直すべきではないか。チーム員をステップアップ講座修了予定者と限定的に解釈することにより、チーム編成が難しくなる可能性が懸念される。
- 認知症地域支援推進員は本人と深いかかわりがある例えば、「認知症地域支援推進員がチーム員に含まれている」という要件があれば、認知症地域支援推進員が市町村とのつなぎの役割を果たしてくれるのではないか。

市町村への情報発信時の留意点について

- KPI を設定したことにより、チームを作ること自体が目的となってしまうことが懸念される。仕組みや制度ありきで検討を進めると失敗する。何のために、どのようなチームオレンジが必要かを各市町村で本人、家族、地域住民等と一緒に考えてもらうような情報発信が必要ではないか。
- チームオレンジが市町村にとって「やらなければならないもの」ではなく「やりたいもの」になるような情報発信が必要ではないか。
- チームオレンジをはじめとした市町村における認知症施策は行政のみが取り組むものではない。地域には、認知症共生社会の実現に向け、熱心に取り組んでいる組織・団体、人がいる。そうした方々と行政の連携に資するような情報発信が必要ではないか。
- チームオレンジを立ち上げることがゴールではないことを意識することが必要である。最初から全て上手くいくわけではなく、立上げ後の活動を通して、本人、家族、地域住民等が、ともに学び、ともに成長していく、そのような姿勢を大切にすべきではないか。
- チームオレンジの活動は、認知症領域だけの取組ではなく、地域づくり全体につながるということを理解してもらうような情報発信が必要ではないか。

5. 今後の課題

(1) チームオレンジの成果等をより多くの本人・家族等に還元する仕組みの検討

本調査研究で実施したヒアリング調査等を通じて、地域の本人や家族のニーズや社会資源の状況に応じた、多様なチームオレンジのあり方が明らかになった。また、チームオレンジの活動が、本人・家族の日々の生活の充実や安心感の醸成や、認知症とともに誰もが安心して暮らし続けられ地域づくりにつながっている事例も確認できた。

一方、各市町村においてチームオレンジの活動に参加している本人の人数は数人～10名前後であるケースが大多数を占めている。「日本における認知症の高齢者人口の将来推計に関する研究」の推計において、65歳以上の認知症患者数は2020年に約602万人、2025年には約675万人であると、予測されていることを踏まえると、チームオレンジを設置済みの市町村においても、活動に参加していない、もしくはできていない本人が多く存在すると思われる。今後は、チームオレンジの整備と並行して、チームオレンジの活動の成果等をより多くの本人・家族等に還元する仕組みの検討が必要であると考えられる。

(2) 「チームオレンジの三つの基本」の具体的な運用のあり方の周知

本調査研究で実施したヒアリング調査等を通じて、チームオレンジの三つの基本については、市町村ごとに解釈の相違があることが明らかになった。例えば、「ステップアップ講座修了及び予定のサポーターでチームが組まれている」に関して、ステップアップ講座修了及び予定の人以外は、チーム員として認めないといった限定的な解釈をしている市町村もあれば、本人、家族はステップアップ講座を受講しなくてもチーム員として認めている市町村もあった。

本来、ステップアップ講座の受講については、チーム員となってからの受講や既存の活動ではチームオレンジの考え方を伝える説明会等で代替することができ、各市町村、チームの状況に応じた柔軟な運用が可能である。チームオレンジの目的を踏まえた上で、三つの基本の具体的な運用のあり方を引き続き市町村に周知していくことが必要であると考えられる。

参考資料1_チームオレンジに関するアンケート調査 調査票

チームオレンジに関するアンケート調査									
<p>1. 基本情報について</p> <p>(1)市区町村名 市区 町村</p> <p>(2)ご回答者様 お名前 様</p> <p style="text-align: right;">ご連絡先メールアドレス </p> <p style="text-align: right; font-size: small;">※回答内容に関するお問い合わせ先</p>									
<p>2. チームオレンジの活動状況等について</p> <p>(1)チームオレンジではどのような活動をされていますか。具体的な活動内容についてご記入ください。 ※チームオレンジを複数設置しており、チームごとに活動内容が異なる場合は、それぞれご記入ください。</p> <div style="border: 1px solid black; height: 30px; width: 100%;"></div> <p>(2)チームオレンジに認知症の本人・家族はどのようにかかわっていますか。具体的ななかかわり方をご記入ください。 ※チームオレンジを複数設置しており、チームごとに本人・家族の関わりが異なる場合は、それぞれご記入ください。</p> <div style="border: 1px solid black; height: 30px; width: 100%;"></div> <p>(3)チームオレンジの活動にあたって本人のニーズや希望を把握するために実施している取組や工夫があれば、その内容を具体的にご記入ください。 ※チームオレンジを複数設置しており、チームごとに取組や工夫が異なる場合は、それぞれご記入ください。</p> <div style="border: 1px solid black; height: 30px; width: 100%;"></div> <p>(4)貴自治体におけるチームオレンジの立ち上げの方法として近いものを選択してください。 ※チームオレンジを複数設置しており、チームごとに立ち上げの方法が異なる場合はあてはまるものを全て選択してください。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30px; text-align: center;"><input type="checkbox"/></td> <td>「チームオレンジ」として新たに団体や活動等を立ち上げた</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;"><input type="checkbox"/></td> <td>以前から地域にあった団体や活動等を変更(再編)し、「チームオレンジ」とした</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;"><input type="checkbox"/></td> <td>以前から地域にあった団体や活動等をそのまま「チームオレンジ」とした</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;"><input type="checkbox"/></td> <td>その他(下部にご記入ください)</td> </tr> </table> <p>(5)チームオレンジの立ち上げの経緯や、根拠となっている計画などを具体的にご記入ください。 ※チームオレンジを複数設置しており、チームごとに立ち上げの経緯や根拠が異なる場合は、それぞれご記入ください。</p> <div style="border: 1px solid black; height: 30px; width: 100%;"></div>		<input type="checkbox"/>	「チームオレンジ」として新たに団体や活動等を立ち上げた	<input type="checkbox"/>	以前から地域にあった団体や活動等を変更(再編)し、「チームオレンジ」とした	<input type="checkbox"/>	以前から地域にあった団体や活動等をそのまま「チームオレンジ」とした	<input type="checkbox"/>	その他(下部にご記入ください)
<input type="checkbox"/>	「チームオレンジ」として新たに団体や活動等を立ち上げた								
<input type="checkbox"/>	以前から地域にあった団体や活動等を変更(再編)し、「チームオレンジ」とした								
<input type="checkbox"/>	以前から地域にあった団体や活動等をそのまま「チームオレンジ」とした								
<input type="checkbox"/>	その他(下部にご記入ください)								

(6) チームオレンジの設置にあたって連携した社会資源としてあてはまるものを全て選択してください。

<input type="checkbox"/>	チームオレンジコーディネーター
<input type="checkbox"/>	認知症地域支援推進員
<input type="checkbox"/>	生活支援コーディネーター(地域支え合い推進員)
<input type="checkbox"/>	地域包括支援センター
<input type="checkbox"/>	地域の認知症カフェ
<input type="checkbox"/>	地域の商工会
<input type="checkbox"/>	地域の民間企業(金融機関、住宅、小売り業 等)
<input type="checkbox"/>	地域の医療機関(病院、かかりつけ医、薬局 等)
<input type="checkbox"/>	地域の介護事業所・施設
<input type="checkbox"/>	地域の社会福祉協議会
<input type="checkbox"/>	地域のボランティア団体
<input type="checkbox"/>	認知症初期集中支援チーム
<input type="checkbox"/>	協議体(生活支援体制整備事業)
<input type="checkbox"/>	地域ケア会議
<input type="checkbox"/>	その他(下部にご記入ください)

※可能であれば、チームオレンジのメンバー(構成員)が分かる資料を添付願います。

(7) チームオレンジの立ち上げから活動の定着までに至るまでのプロセスでの苦労や
感じられた難しさなどがあればご記入ください。

※チームオレンジを複数設置しており、チームごとに苦労や難しさが異なる場合は、それぞれご記入ください。

(8) チームオレンジの円滑な活動のために工夫されていることがあればご記入ください。

※チームオレンジを複数設置しており、チームごとに工夫されている点が異なる場合は、それぞれご記入ください。

(9) チームオレンジを設置することにより、生じた効果や行政として感じているメリットがあればご記入ください。

※チームオレンジを複数設置しており、チームごとに効果やメリットが異なる場合は、それぞれご記入ください。

(10) チームオレンジについて、行政として課題に感じていることがあればご記入ください。

※チームオレンジを複数設置しており、チームごとに感じる課題が異なる場合は、それぞれご記入ください。

3. ステップアップ講座の内容について

(1) 貴自治体を実施しているステップアップ講座の内容として最も近いものを1つ選択してください。

「自治体独自の内容を実施している」又は「その他」を選択した場合には、実施しているステップアップ講座の内容を具体的にご記入ください。

<input type="checkbox"/>	全国キャラバン・メイト連絡協議会発行の「認知症サポーターステップアップ講座教材」に沿って実施している
<input type="checkbox"/>	自治体独自の内容を実施している(講座の内容を下部にご記入ください)
<input type="checkbox"/>	その他(講座の内容を下部にご記入ください)

4. その他

(1) チームオレンジの活動等に関する実施要綱を作成していますか。

<input checked="" type="checkbox"/>	実施要綱を作成している
<input type="checkbox"/>	実施要綱を作成していない
<input type="checkbox"/>	その他(下部にご記入ください)

(2) チームオレンジの活動等に関する個人情報の取り扱いについてルール等を定めていますか。

ルール等を定めている場合は、その内容を具体的にご記入ください。

<input type="checkbox"/>	個人情報の取り扱いに関するルール等を定めている(下部に具体的にご記入ください)
活動登録申請書に個人情報に対する取扱いを明記している。	
<input type="checkbox"/>	個人情報の取り扱いに関するルール等を定めていない

最後に連絡事項となりますが、

本調査の一環として、チームオレンジを設置している市区町村を対象としたヒアリング調査を実施しています。

一部の市区町村の方には別途ご依頼させていただきますので、可能な範囲で御協力頂けると幸いです。

※ヒアリング調査では上記の「2. チームオレンジの活動状況等について」の内容についてより詳細にお伺いさせていただく予定です。

※ヒアリング調査はオンライン又は対面で最大1時間程度を予定しております。

※本調査研究は、令和4年度厚生労働省老人保健健康増進等事業として実施したものです。

令和4年度老人保健事業推進費等補助金 老人保健健康増進等事業

チームオレンジの整備促進に関する調査研究
報告書

令和5年3月

株式会社日本総合研究所

〒141-0022 東京都品川区東五反田 2-18-1 大崎フォレストビルディング

TEL: 080-1203-5178 FAX:03-6833-9480